

# 『オニハソト』

## 防府商工高校演劇部 作



【受賞歴】 2024年度 山口県高等学校演劇大会 最優秀賞

中国地区高等学校演劇発表会 優秀賞（松江市教育委員会教育長賞）

【上演人数】 7名（

【あらすじ】 アルバイト先のコンビニには鬼がいる。威圧的に大声で怒鳴り散らすクレーム

ー、人の夢を笑い見下す店長、その店長と不倫していることをいいことに口々に仕事も覚えないう後輩。早く「退治」しないと。そう思いませんか？

【上演許可申請先】 [yamasaki.takahisa.uj@m.yasn21.jp](mailto:yamasaki.takahisa.uj@m.yasn21.jp)

防府商工高校演劇部顧問 山崎貴久

### 【登場人物】

- 桃太郎 …… 留年をした大学生。ゲームとアルバイトの世界を行ったり来たり。
- 先輩 …… バイト先の先輩。画家を目指し、美術系の大学に通っている。
- 高鬼（店長） …… 桃太郎に高圧的な態度。若作りしている。
- 色鬼（後輩） …… 高校生。きゃぴきゃぴ女子。
- 氷鬼（客） …… コンビニの常連。威圧的な態度を取る。キャリアウーマン風。
- イヌ …… 桃太郎のゲーム仲間（女）  
（トモヨさん・桃太郎の母・カップルの彼女・色鬼の先輩・幼馴染・氷鬼の後輩・保育園の先生）
- サル …… 桃太郎のゲーム仲間（男）  
（配達員・桃太郎の父・客・カップルの彼氏・コーチ・先生・氷鬼の上司・氷鬼の夫）

※イヌとサルは主要な登場人物を取り巻くすべての人々を兼ねている。

※「キジ」客席から一言だけ発声する



全員 『桃太郎さん、桃太郎さん、お腰に付けたきびだん』 一つわたしにくださいな。』

舞台の真ん中に桃。ぱかっと開いて、桃太郎登場。

切りかかってくるイヌ。桃太郎はバカパカして閉じこもる。

イヌがサルを呼ぶ。サルの手には芝刈り用の鎌。

【自宅】

イヌ 「おりゃあああー!」

サル 「おりゃあああー!」

サル 今日こそおれたちの勝利だあ〜!

イヌ 早くとどめを、とどめを〜!

音楽が流れて、スローモーション。(水曜日のカンパネラ「桃太郎」instruments)

全員 むか〜し、むかし、

桃 でもなく、結構最近に一人の若者がいました。

「正しく生きなさい」と、言い続けた両親に正しさとはなんなのか、聞けないままに、

全員 どんぶらこ〜どんぶらこ〜。

桃 と流れ続けた18年間。

気付けば学び舎からは足が遠のき、バイト先とゲームの世界を行ったり来たり。

桃 これは「じぶん」が正義を知る物語。

ここに参るは、正義の味方。桃より生まれし、桃太郎!

悪行三昧、鬼どもを、えんやえんやと退治して。

見せましょう!見せましょう!美しき、楽しき正しき世の中を!

音楽終了。悔しがるサルとイヌ。

サル ああまた負けた〜。

イヌ あなたの判断が悪すぎ。

サル そっちの気が利かなすぎ。

イヌ はあ?そのなまくら、もうちよい、いい装備手に入れてから、言ったり?

サル この芝・the・カマーのどごがなまくらだつて?

イヌ もう時代遅れでしょ。この貧乏人。

桃 まあまあ、そんなケンカしないで。二人ともいい動きでしたよ。

イヌ いい動きしても、負けてるんだから一緒。

サル 嫌味にしか聞こえませんかあゝ

桃 もうそんなこと言わないでくださいよゝ。

サル …あ、そろそろログアウトしますね。バイトなんで。

サル ああ、勝ち逃げですかあゝ

イ又 もう一戦、もう一戦。

桃 無理ですよ。もうギリギリなんで。

イ又 そんな殺生なく。

サル ちゃちゃつと済ませますから、ちゃちゃつとおおゝ…

ヘッドホンを外す桃太郎。父と母の声が聞こえる。

桃 ふっ。

父 王毛は？いるのか？

母 部屋に。

父 大学には、ちゃんと行ってるのか。

母 ……今まで散々ほったらかしてきたくせになに？

父 ……もう無理して行かせなくてもいいんじゃないか？

母 はあ？卒業できなかったらどうするのよ！留年なんかして。

父 あいつももう大人みたいなもんだ。勝手にさせろよ、

母 せっかく苦勞して入ったのに。あの子の人生を見捨てるの？

父 俺はもつと自由にさせろ、って言うってんだ。

母 放置と自由は違う、あなたはただ仕事が好きで、家庭が嫌いなだけ。

父 お前はなんでもかんでもあいつに押し付けてばかりだったろ。

母 あなたはあの子になんにも与えなかった。

父 ああするのが正しい、こうするのが正しい。息がつまりそうだ。

母 ああすればよかった、こうすればよかった、そんな風に後悔させたくないだけ。

桃に閉じこもる桃太郎。

父 失敗したっていいだろ。やり直せばいいんだ。

母 失敗したからって、やり直せることばかりじゃない。

父 正しく生きることがそんなに大事なのか？

母 正しくないと生きていけない世の中じゃない！

コンビニの入店音が聞こえる。桃を持って出勤していく桃太郎。

桃 いらっしやいませ〜。  
ただいま、美味しい肉まんが出来立てです。ご一緒にいかがでしょうか〜。

【コンビニ店内】

桃太郎がはけた後、先輩が仕事をしながら登場。

先輩 一緒にいかがでしょうか〜。(あくび)

桃 眠そうっすね。また遅くまで絵、描いてたんですか？

先輩 う〜ん、気付いたら朝日が。

桃 どんな生活してるんですか。

先輩 今回の、結構良い出来なの、筆が乗っちゃって、乗っちゃって。

桃 あんまり無理しないでくださいよ？

二人が話していると高鬼(店長)がだるそうに入店してくる。

桃 あ、お疲れ様です。

先輩 お疲れ様です。

高鬼 (見ずに)お〜す。あ〜きつつ。二日酔いきつつ。

モモ。ちよっと仕事あるから〜。もう少し前いろよ。どうせ予定ないんだろ。

桃 ……まあ。…はい。

先輩 今日も残業だね。

桃 いつものことですし。

先輩 ちよっとレジ、お願いしてもいい？

桃 わかりました。

先輩がバックヤードに消える。桃太郎がレジ回りで作業している。

客が入店。商品を選んでレジへ。

桃 いらっしやいませ〜。袋いりますか〜？

客 ください。

桃 お箸は何膳ご入用ですか？

客 (指を一本立てる)。

桃 一膳ですね。お会計、782円です。

客 ちゃちゃっとペイで。

桃 レシートご入用ですか？

客 いらないます。

桃 お待たせいたしました。またお越しくださいます。

客が出ていく。入れ替わるようにトモヨさんが入店。

桃 あ、トモヨさん、こんにちは。

トモ ああ、今日も暑いねえ。

桃 そうですねえ。体、気をつけてくださいね。

トモ ありがとねえ。はい、あめちゃん。

桃 いつもすみません。

先輩が戻ってくる。

先輩 ああ、トモヨさん。こんにちは。

トモ ああ、こんにちは。

先輩 腰の調子はどう？

トモ 最近は大いぐ良くてねえ。大丈夫だよ。

先輩 そう、よかった。はい、かこ。

トモ いつも悪いねえ。

電話をしながら入店する氷鬼(客)。せわしく棚のものを選んでいる。

氷鬼 だから、なんでさつさとやっておかないのよ。

桃 いらつしやいます。

先輩 今日は何いるの？牛乳と？たまごど？

トモ あと、お野菜あるかね。

氷鬼 今日中にまとめて、相手方に提出しなさい。

は？今日に決まってるでしょ。

氷鬼 当たり前じゃない、何言ってるのよ。

先輩がレジを終えて、トモヨさんとともに店の外へ。  
ずっと大声で話し続ける氷鬼。レジに向かってくる。

桃 いらつしやいます…

氷鬼 (小さな声で) 37番。あ、言い訳終わった？

桃 あ、もう一度よろしいですか？

氷鬼 勤務時間とかそんなの関係ないから。あなたがやるべきことをやりなさい。

桃 あの、

氷鬼 37番ー！

桃 …承知しました…10200円です。

氷鬼 袋。(お金を投げ返す)

桃 1025円です。一万円お預かりします。お釣りご確認をお願いします。1、2…

氷鬼 (お金を奪い取り) いいから。早くしろよ。

桃 残り975円です…

氷鬼 (トレイを指す)

桃 ありがとうございます

氷鬼が帰っていく。先輩が帰ってくる。

桃 ……あんなに大きな声で話す必要あるんですかね？

先輩 っひ。

桃 先輩は何も思わないんですか？

先輩 まあ確かに、ちょっとあれだけど、かといって、とやかく言うのもなんか違うじゃん？

一応、常連さんなんだし。

桃 常連っていつても、優しいトモヨさんとは大違いですけどね。

先輩 まあね。

桃 先輩は、ほんとお人よしですよね。

先輩 褒めてもなにもないよ。

桃 僕、無駄に声大きい人とか、やたらしゃべる人、苦手(なんですよね…)

色鬼(後輩) がきやぴきやぴ登場。二人、少し嫌そうな顔。

色鬼 オッ疲れさまでえーす！

桃 お疲れ様です…。

先輩 お疲れ様…

色鬼 見てみて〜新しいバック。これ、どうですか？かわいいですか？

桃 明るい色ですね。

色鬼 そうー最近はやりの虎柄！モモ先輩ならわかりますよね〜

桃 まあね。

先輩 嘘つけ。

色鬼 え、てかてか、二人で並んでこそこそなに話しててるんですか？

先輩 別に。

色鬼 あゝもしかしてイケないことして…

高鬼がバックヤードから出てくる。

色鬼 あ、テンチヨク、お疲れ様でえす。

高鬼 ああ、お疲れ。(色鬼のこことを見て) ちょっと大事な話があるんだ、少しいいか。  
色鬼 はあい。

先輩 あ、店長。

高鬼 あああん？

先輩 このあとの集荷、準備お願いできますか？

高鬼 やって帰れよ。そのくらい。

先輩 この後、絵画教室あるんで。もう上がります。いろはちゃんお願いできる？  
色鬼 えゝ集荷ゝあんまりよくわかんなくてゝ

先輩 入って結構経つんだから、そろそろ覚えな(いと)。

高鬼 おい、モモ。

桃 …僕、やつときますよ。

高鬼 よし、さすが。じゃあな。さ、さ、大事な話が、早く、早く。

色鬼 はあい。オッ疲れさまでしたゝ。

色鬼と高鬼はバックヤードに消えていく。二人は顔を見合わせ、ため息。

先輩 いいの？ごめんね。

桃 いいですよ。最近絵画教室の方も結構入ってますよね？いつ寝てるんですか？

先輩 いつなんだろうねゝ。帰り道とか？

桃 それやばいですよ。

帰宅する先輩。高鬼がバックヤードで周りの様子伺う。

突然いちやつき始める高鬼と色鬼。

### 【バックヤード】

高鬼 あゝん、いろはちゃんゝ。会いたかったよゝ。

色鬼 私もだよゝ。(イチヤイチヤする)

ねえねえ聞いて今日学校で、あの、あの、がおつゝって先生に怒られてゝ。

高鬼 ええだじよ、だじよ、だじよゝぶゝだつたゝ？

色鬼 もういやゝびえん。びえん追い抜いてばおんゝ



高鬼 ばおん追いついてふにゃん♪  
色鬼 ふにゃん追い抜いてぺにょん♪  
高鬼 も〜、スピード違反で逮捕、逮捕〜！

抱きつこうとするが、華麗にかわされる。悔しそうな高鬼。

色鬼 でね、でね、明日はね、ユキたちとフレンチに行くの。

ほら、もうすぐ〜いろはの誕生日だから〜？

高鬼 ……え、誕生日って。確か…。

色鬼 11月

高鬼 今は？

色鬼 7月。

高鬼 スピード違反だ…。

色鬼 え〜なになに〜？

高鬼 ううん、何でもないよ。

しょうがないなあ（お金取り出し）はい。

色鬼 え〜また〜？もらえないよ〜。

高鬼 あ、そう？

色鬼 （すぐに受け取り）え、うれし〜！ありがとう！

高鬼 や、やっぱ昭和の漢って奢ってなんぼのもんって感じじゃん？

色鬼 え〜マンモスうれぴ〜。昭和カツコイ〜。テンチョー大好き〜♡

高鬼 俺もだよ〜♡

色鬼 私の方が好き〜♡

高鬼 いやいや、俺の方が好き〜♡

色鬼 わたしの方が〜

高鬼 俺の方が〜

色鬼 わたしの方が〜

高鬼 俺の方が〜

急に雰囲気が変わる二人。

色鬼 ああテンチョー。テンチョー。どうしてあなたはテンチョーなの？

高鬼 ああ！マイジュリエット！

色鬼 テンチョーと私は結ばれることはない運命、でもでも私は…テンチョーのことを…

高鬼 もうそれ以上は言わないでおくれ。

これ以上この胸に宿る熱き思いをどめておくことができなくなるのだから！

色鬼 ああテンチョー！

高鬼 ああジュリエットー！！

色鬼 ああテンチョー！

高鬼 ああジュリエットー！！

色鬼 ああテンチョー！！

高鬼 ああジュリエットー！！

桃太郎が二人を見ている。

桃 もう終わりました？

高鬼 なああああ！！にいいい？？

入ってくる桃太郎に驚く店長。何事もなかったようにエプロンをつける色鬼。

高鬼 あー急に入ってくんじゃねえよ！

(咳払い) ああ、モモ、そろそろあがっていいぞ。

桃 はい。

高鬼 ああそーいや、さっきの声。あの客、またギヤーギヤー言ったのか？

桃 まあ。

高鬼 ほんと俺が忙しくなかったら、一発ビシッと言ってやったんだけどな。

お前なんか客じゃねえって。

桃 …。

高鬼 ひよつとしたら、手が出ちゃうかもな、ほら、おれ最近ボクシング？

かじつちやってるから〜？(シャドーボクシング)

俺はザ昭和の男だから。お前ほんと令和って感じ。

…平成生まれなんですけど。

高鬼 はあ〜ごちゃごちゃ細かいな。こっちは上司だぞ？

ほんつと今どきの奴らは敬意(つても)を知らねえよな。(

色鬼 ケーキ？

高鬼 俺の若いころはな〜これだよ、これ。こ・ぶ・し。

色鬼 ええ〜怖いかも〜シクシク。

高鬼 え〜めんご、めん(こ〜)

業者 お世話つなりやくす！！集荷つで〜す

色鬼 キャツ、吉田さんだ！今行きま〜す！！

桃 あ、レジ裏に荷物置いてま〜す。

入り口に宅配業者の姿。色鬼は声を聞いて、すぐに飛び出していく。  
マッチョな宅配業者にデレデレする色鬼。がっかりする店長。

高鬼 ああそういや、あいつ明日入れねえよな？

桃 先輩つすか？明日木曜なんで、絵画教室なんじゃないんですか？

高鬼 ちっ。絵画教室なくあいつ本気で画家目指してんの？

桃 大学通ってるくらいだからそうなんじゃないですかね？

高鬼 はっ、金もないくせに。ゴッホでも目指そうってか。耳が〜耳が〜。

桃 やりたいことがあるのはいいことですよ。

高鬼 …お前と違ってな。

桃 …。

高鬼 そんな無駄なことに時間をかける暇あんなら、もっと働いてほしいですなあ〜。

桃 …無駄とは限らないですよ。

高鬼 無駄無駄…わかってないなあ、お前は。

桃 そうですかね。

エプロンをたたみ、帰る準備をする桃。

高鬼 …お前は今自分がこの世界で何階に住んでいると思う？

桃 どうゆうことですか？

高鬼 ほら、お前の人生のランク的なものだよ。高いと思うか？低いと思うか？

桃 …低いんですかね？

高鬼 もっと高いところに上りたいって思うか？

桃 まあ。

徐々に高い位置に向かって歩き始める。

高鬼 たとえばな、お前が2階に住んでたとして。3階の住人は上の人間だ。そうだろう？

だが、そいつは4階の住人から見れば、下の世界の人間だ。

上のぼりたいてって、1階1階、ゼエゼエ言いながらのぼって、のぼって。

やっとのことで、最上階まで這い上がってみた、としてよ。

気付いたらあつという間に、もっともっとデカイビルが建っていくんだ。

きりがないんだよ。…上を見続ける限り、一生下の住人なんだよ。

着信音。高鬼が携帯を確認し、嫌な顔をする。

高鬼 …。

桃 じゃあ、あがりますね。

高鬼 ああ。もしもし(桃に向けて手をあげて、電話に出る様子)

すれ違つように色鬼が帰ってくる。電話をしている高鬼。

業者 (影から) おっせわつした〜!

色鬼 オッ疲れ様でした〜!(名残惜しそつに見送る) あ〜マッチョたまらん。あげみぞわ。

高鬼 明日会いに行くからな〜プレゼント〜? パパがプレゼントだろ?

色鬼 (リップを塗りながら) このリップ、発色わる〜。

高鬼 (色鬼に気付きコソコソと) あ、じゃあ、パパはお仕事あるから。ばいばーい。

色鬼 …電話してていいのに〜

高鬼 いやいやちようど終わったから〜。

色鬼 ……ねえテンチョー、あたし、どこか旅行に行きたいな〜温泉とか?

高鬼 いいけどお店あるしね〜

色鬼 二人でお休み取って行こうよ〜

高鬼 でもほら、まだ高校もあるじゃん? 卒業したら、ね?

色鬼 卒業したら…絶対だよ?

高鬼 わかってるよ、約束。

怪しげな雰囲気。場面が変わり、別の日に。

### 【コンビニ店内】

色鬼 ねえテンチョーテンチョー。早くカラオケ行こうよ。

高鬼 しばしお待ちゆを〜この仕入れだけ入力しちゃうからにゆえ〜

色鬼 あ、オッ疲れ様で〜す!

先輩 お疲れ様。清掃のチェック、書いてなかったよ。

色鬼 え、え、ほんとですか〜?

先輩 ほんと。

高鬼 もうソフト過ぎてんだから、仕事の話すんなよ〜

先輩 ちゃんとやったの?

色鬼 やりましたよ〜。

先輩 トイレットペーパー補充されてなかったよ。

色鬼 え〜

高鬼 お前はぐちぐちうるさいな〜本人がやってるって言うてんだから、やってるんだよ。

ペーパーくらいお前が替えてやればいいだろ。

先輩 替えましたけど。

高鬼 なら解決！

色鬼 じゃあ、あたしあがりますね〜オツ疲れさまでした〜。

高鬼 ああお疲れ。気を付けて帰るんだぞ。(真面目を装う)

…じゃあ、そろそろ俺もあがるわ〜よろしく〜(はけたあと歌を歌う)

先輩はため息をついて、仕事を続ける。

トモヨさんが入店してくる。

先輩 あれ、トモヨさん。今日、遅かったね。

トモ ちよつと病院。

先輩 腰の具合、悪いの？

トモ まあまあ、大丈夫。大丈夫。あら、今日のお化粧きれいね〜

先輩 いつもとおんなじだよ〜でも嬉しい。褒め上手。

桃太郎が出てくる。レジの近くで作業をしている様子。

桃 あ、こんにちは。

トモ こんにちは。ああ、これ、はい。(先輩に何かを手渡す)  
なにになに？

トモ 暇だからね、編んだの。カバン。

先輩 ええすごいーねえ、見てこれ。トモヨさんが編んでくれたの！  
え〜上手ですね〜。あ、いらつしやいませ〜

氷鬼が来店、レジにまっすぐ向かってくる。

イヌ ほら、絵の具とか、筆とかいれてちょうだい。

先輩 うん！ありがとう！

氷鬼 おい！

桃 お待たせいたしました。

氷鬼 ちっ。37番。

桃 510円です。

イヌ いつも頑張ってるからねえ。無理しないんだよ〜。

先輩 トモヨさんもね。これべつやっつて編んだの〜？

イヌ これはね〜

桃 90円のお返しです。

氷鬼が立ち去り際にイヌに対して怒鳴りながら出ていく。  
イヌがよろめいて倒れ込む。

氷鬼 邪魔なんだよ！

先輩 トモヨさん！（氷鬼に対して）ちょっとー！！（追いかけていく）

桃 大丈夫ですか！トモヨさん！トモヨさん！立ってますか？

イヌ 大丈夫、大丈夫、ごめんねえ。ごめんねえ。

先輩 だれか！救急車を！

全員 「道をあげてください！」「ここ通りますー！」「危ないので下がってくださいー！」「

「こっちです、こっち！」「早く急いでー！」

慌てふためく人々。赤く点滅。

その中をゆっくりと先輩が歩いた後、石段に座り込む。

### 【帰り道・夕暮れ】

桃 こんなところで、寝てたら危ないですよ。…それ。

先輩 …うん、描いてたの。ここ。私のお気に入り。

桃 …あの…トモヨさん、どうでしたか？

先輩 …ほら、こっち、こっちおいで。

桃 犬じゃないんですから。(近くに座る) いい景色ですね。

先輩 でしょ。(長い沈黙) …トモヨさん、入院するんだって。

桃 また腰痛めちゃったんですか？

先輩 うん…しばらくお店いけないから、ごめんねえって言ってた。

桃 ごめんって…あの時も謝ってましたね、トモヨさん。

先輩 ね、何も悪くないのに。

桃 …警察とかに言わないんですか？

先輩 何回も言ったんだけどね、でも、見てなかった自分が悪いからって。

桃 おかしいですよ。明らかにあの人が悪いのに。

先輩 そうだね。

桃 そうだね、じゃなくてももっとちゃんと話して警察に届けるべきですよ。

ほら、お店の防犯カメラとか、残ってますし。

甘すぎますよ、トモヨさん。自分がもう(歩けなくなるかもしれ…)

先輩 もういいって言ったの！もういいって。

私だって何度も言ったよ！ちゃんと警察に話して、って。

でも、もういいんだよ、って。どうせ治らないんだからって。

そういわれたら、どうしようもないじゃん！

桃 …。

先輩 …きつとトモヨさんの見ている世界は、私たちとは違うんだよ。

桃 見ている世界…？

先輩 …一人一人、同じ世界を見ているようで、実は全然違うと思うの。

この景色だって、そう。

どこから見なのか、どうやって見るのか、どんな気持ちで見るのか。

お互いにわかっているようで、わかっていない。わかっているふりをしているだけ。

桃 わかっているふり…。

先輩 …だから私は絵を描くの。

桃 え？

先輩 ほら、「私が見えている景色、素敵でしょ」って。

「私にはこう見えてるの。あなたはどこう？」って。

言葉だけじゃなくて、分かり合える気がするから。

桃 …。

先輩 …これ貸したげる。

桃 いや、いいですよ。下手です。

先輩 別に下手だっていいじゃん。

桃 よくないです。

先輩 いいから、ほら。

(浚々受け取り、絵を描く)…どうですか？

先輩 …君にはこう見えてるんだね。

桃 変ですかね？

先輩 別に！変じゃないよ。良い感じ！…あ、でもただここをもうちょっとこうして。

こうするといいかも。こうギューンと。ググっと。

先輩、絵のことになるよ、アバウトなんですね。

先輩 ははっ。そうかなあ？

穏やかな雰囲気。だが次第に不穏な空気に。

ただ事じゃない雰囲気のコンビニ店内。桃太郎・先輩・色鬼・氷鬼がいる。

氷鬼が怒鳴り散らしている。先輩の表情は読み取れない。

【コンビニ店内】

氷鬼 …。

先輩 申し訳ありません。

氷鬼 申し訳ないじゃなくて。早く店長出せよ。

先輩 今は不在で…。こちらの不手際で申し訳…。

氷鬼 なんの説明にもなっていない。  
先輩 申し訳ありません。

氷鬼 なんて賞味期限とつくに切れた商品を！客が買うことになるんだって、聞いてんだよ！  
先輩 ……廃棄する作業が抜け漏れてしまい…  
氷鬼 どんだけ無能なら、そんなことになるんだよ！ああ！

先輩 申し訳…  
氷鬼 お前か？（色鬼の方を見て）

色鬼 ……！

先輩 ……申し訳ございません！  
氷鬼 食えないもの客に売るなんて、ありえないだろ！  
これで私が体壊したら、どうするんだよ！おい！

先輩 ……。  
氷鬼 何か言えよ！

先輩 申し訳ございません。  
氷鬼 同じことだけ言ってるだけなら、お前らみたいな底辺でもできるな…  
先輩 ……土下座しろ。土・下・座しろ…！

先輩 それはできません。

氷鬼 はあ？できませんじゃなくてしろって言ってんだろ。  
先輩 ……。

氷鬼 早くしろ。

桃 もうやめて（もらっていいですか）  
先輩 （制止するように）この度は大変申し訳ございませんでした！

商品の代金は返金しますので…  
氷鬼 早く、土下座しろっつってんだろ…！

先輩 それはできません！（次のセリフに）  
氷鬼 （舌打ち）

先輩 レシート等、お持ちでしたら、すぐに代金はお返しいたします。  
（具合がもし悪くなるようでしたら）

氷鬼が携帯電話を取り出し、先輩の写真を撮る。

氷鬼 ちっ。もういい。顔、覚えたからな。

去っていく氷鬼。しんみりする店内。

色鬼 ……マジ、ウザかったですね…。更年期爆発くやばみくって感じ。



桃 …。

先輩 …。

色鬼 土下座とか、やばすぎですよね。

ほら、もう気にしないで（お仕事ファイターって感じで）

桃 …あれ、いろはさんですよね。

色鬼 いや、あたしじゃないですよ。

先輩 誰かだけのせいじゃないから。

桃 それで済む話じゃないですよね。前も廃棄の商品、間違っつて棚に戻りましたよね？

色鬼 前はそうですけど、あれから気を付けてましたもん。

桃 同じようなミスいつつもしてるじゃないですか。

色鬼 なんでそんなこと言っんですか。勝手に決めつけないでくださいよ！

桃 決めつけられるようなことしてるからですよ！

先輩、写真撮られましたよね。大丈夫ですかね…

色鬼 はいはい、桃さんも私のことが嫌いなんです、いいです、信じてくれない（なら）

先輩 もういいから！

桃 いや、よくないですって。

高鬼がやってくる。

高鬼 おつす、ん、なんかあったのか？

桃 …店長、実は今…

色鬼 あたしじゃないもん（号泣し始める）あたしじゃないもん…

高鬼 お、おい、どうした、どうした？ほら、と、とりあえずこっち来て。

高鬼が色鬼をバックヤードに連れていく。

桃 …先輩。

先輩 ちよつと裏行ってくるね。ドリンク補充しなきゃ。

桃 俺、やりますよ。

先輩 いいから！前、お願いね。

立ち去る先輩。バックヤードで高鬼が色鬼を慰めている。

高鬼 落ちついて、ほら、飲んで。

色鬼 （泣きながら）ほんとにね、あれからちゃんとしたの…

私じゃないの。ねえテンチョー。信じて。

高鬼 わかつてる、大丈夫、信じるよ。  
色鬼 ほんとに？  
高鬼 ああなんとかする、なんとかするから。  
色鬼 ありがとう、テンチョー。大好きだよ。  
高鬼 ああ・・・俺もだよ。

炎上の気配。電話が鳴っており、店長が時折出る。いたずら電話や迷惑電話の様子。  
チャライカップルがやってくる。「そこそ話しながらレジの桃太郎と色鬼のところへ。」

高鬼 はい、オニリーマート地獄店。

もしもし...もしもし。(電話が切られる音) くそ！

桃 いらっしやいませ。

桃 袋はご入用ですか。

男 (にやにやしながら) いいですよ。

桃 525円になります。

男 ちゃちゃつとペイで。

桃 (会計が終わり) ありがとうございます(ました...)

男 あの...この人いないんですか？(携帯画面見せる)

女 やめなよ...

桃 今は、いません。

男 え、辞めたんですか？

桃 ...辞めてないです。

男 逆切れ店員？腐ったもの売りつけて。早く辞めさせた方がよくないですか？

桃 あなたには関係ないでしょ。

女 え...こいつも切れてるじゃん...

男 ざげんなよ、客に対してその態度。なめてんのか。おい！

高鬼が慌てて表に出てくる。

高鬼 どうされましたか？お客様。

男 こいつ、なめた口きいてんぞ。

高鬼 それは大変申し訳ございませんでした...。おい、謝れ！

桃 ...。

男 テンチョーさん、教育どうなってますか？

あの女店員といい、こいつといい、終わってるじゃん。なあ？

女 確かに...。

高鬼 はい、はい、申し訳ないです。ああでも、あいつはもうクビにしたので、え、まじ？ウケる。

女 (笑う)

高鬼 はい、はい、申し訳ありませんでした。

男 くそ店員が一人いなくなって良かったですね〜テンチョーさん！

まあもうこんなとこ来ないけど！

ねえイノスタに書いてよ。

バズるかもな〜

インプやばそ〜

男 やば〜

サル、イヌが出ていく。店内に気まずい雰囲気。

桃 ……どうゆう(ことですか)

高鬼 辞めたんだよ。あつちから連絡があった。もう行きませんってさ。

桃 大学も辞めたんだってよ。居づらかったんだろ。そりゃこんだけ話題になりやなあ。

桃 なんでクビっていったんですか。

高鬼 そのほうが印象いいだろ。

桃 ……

高鬼 まあ叶わない夢を諦める、いいきっかけになったろ。

ああ、シフト組み直すから、予定出し直しとけ。

桃 ……なんで、先輩が辞めなきゃいけないんですか？

高鬼 ……

桃 先輩はなんにも悪くないじゃないですか。

高鬼 ……

桃 そうですよ、なのになんで、こんなに好き放題言われて、

ネットでなんて言われているか知ってますか。

「謝りもしなかったクズ店員」「客に文句を言ってたコニシ店員」

おかしいですよ、正しいことが何にも伝わってない。あの人は、優しく、ほんとに…

高鬼 ああ！ピーピーうるせえな！終わったことぐちぐち言うな！

もうあきらめるしかないんだよ。

世間に飽きられるのを待つだけ。もうそれだけだ。

桃 (色鬼を見て)……なんでホントのこと言わないんですか？

なんでホントのこと言って謝ろうとしないんですか？悪いと思わないんですか？

高鬼 だからちがうって！何度も本人が言ってるだろ！

桃 そうやって、この人のことはかばって、先輩のことはかばわないんですか。

家庭も裏切って、自分の店のスタッフも裏切って、ほんとにくだらないう人生ですね！

高鬼 …お前いい加減、調子乗るなよう言うって言うてんだろ！

大体こつちはな、被害者なんだよ。くそが！

気に食わないなら、お前もやめちまえ！消えろよ！消えちまえ！！

桃 …あなたのこと許しませんから。

高鬼と桃太郎が去っていく。

ゆっくりと踊りだす色鬼。行き交う人々。過去に舞い戻っていく。

コーチが出てきて踊っている色鬼の様子を見る。手を叩いて止める。

コーチ いろは、アラバスクの時に上半身が倒れていけないように。重心を上にあげて。

そう。そう、イメージグッド。…あんまり…無理するなよ。

色鬼 …今度の公演のこと考えたら、落ち着いていられなくて。

コーチ お前がいなくて成り立たないんだから。主役だぞ、主役。

色鬼 そうですね…。

コーチ …なんだ？選んだ俺に文句があるのか？

色鬼 い、いやそんなわけではないです。…でも…。

コーチ でも？なんだ。

色鬼 私でいいのかなって…。

コーチ お前でいいっていつてるだろ？お前がいいんだよ。

色鬼 ありがとうござい…

遮るようにバレエの先輩が現れる。。

女先輩 お前でいいわけないだろ。コーチのお気に入りで、主役とか。

色鬼 そんなこと…

女先輩 普通さ、自分から辞退するよね、どんだけ自信過剰なの。

色鬼 ごめんなさい…

女先輩 可愛い後輩だと思ってたのになあ。がっかり。

色鬼 ここから出してよ…

女先輩 自分のことが大好きなんですよ。

色鬼 ねえ、…お願い。

女先輩 ああ〜ウザい。ウザい。

色鬼 ここから出して…。

女先輩 早くいなくなれよ！

コーチ 本番まで時間ないんだ。さっさと準備しろ。

色鬼 …辞めます。

コーチ …ん？

色鬼 もう、辞めます。

コーチ どうして？

色鬼 自分のことが、嫌いになったからです。

コーチ …そうか。おまえには期待してたけどな。もついい。

自分を愛せないやつに美しさは宿らない。

コーチがいなくなる。様々な色に染まる舞台。

全員 なぁにいろ？なぁにいろ？なぁにいろ？

色鬼 …ねえねえ私のこと好き？

全員 なぁにいろ？

色鬼 …私のこと…好き…？

全員 なぁにいろ？

色鬼 あたしは…

全員 なぁにいろ？

色鬼 あたしは…

はけていく色鬼とすれ違うように高鬼が登場。色鬼は少し高鬼を見つめる。

ギターを持ち、階段に座る高鬼。幼馴染がやってくる。

幼馴染 あ、いたいた。今日もなんか弾いてよ。

高鬼 しゃーねえなあ。こっち（お金のそぶり）の用意はできてんのか？

幼馴染 聞いてあげるだけありがたく思っって。

高鬼 未来のビッグスターの演奏をただで聞けるとはなあ。

幼馴染 （呆れながら）なぁに言っってんの。おじさんのコンビ、継ぐんでしょ？

高鬼 あんな昭和の塊みたいな親父の後を継げっかよ。

幼馴染 そんな馬鹿なこと言っってないで…

ギターを弾く高鬼。先生が現れる。

先生 おい、高尾。

高鬼 …。

先生 またこんなところでギターなんか弾いてんのか？

高鬼 まあ。

先生 自分の順位わかってんのか？

高鬼 勉強は向いてないみたいなんで。

先生 諦めることも、勇気だぞ。

高鬼 そうすつかね〜？俺なら意外に行けるかも、とか思っちゃったり？

目の前を何度も横切る幼馴染。高鬼のことを気にするぞぶりが無い。

高鬼 おい。今日も一曲聞いてけよ。安くしとくぞ〜

幼馴染 ごめん、今忙しいから。

高鬼 新曲できたんだ、聞いていく？

幼馴染 無理だって言ってるじゃん。

先生 面談するぞ〜。

幼馴染 はい。

高鬼 今回ののは、なかなかいい出来なんだ！絶対気に入る…

幼馴染 うるさいな！みんなあんたみたいに将来決まってるわけじゃないの！

暇ならせめて邪魔しないで！

階段から降りてくる高鬼。背後に先生と幼馴染。

高鬼 なんか言ってくれよ。

先生 お前にできるわけないだろ。時間の無駄、無駄。

高鬼 まあ。

幼馴染 何言ってるの？できるわけないじゃん。

高鬼 そうかな？

先生 無理に決まってる。

高鬼 やってみないと。

先生 お前は親父さんの店を継ぐんだ。それでいいだろ。

高鬼 俺、やりたいことがあるんだ。

幼馴染 まだ言ってる…くだらない。

高鬼 聞いてくれよ…

上から見下される。

先生 できない、できない。

幼馴染 無理無理。

全員 (口々に) できないできない、無理無理！無理に決まってんじゃん！できないでしょ！

先生 で〜き〜ない。で〜き〜ない。

幼馴染 で〜き〜ない。で〜き〜ない。

全員 で〜き〜ない。で〜き〜ない。

先生 無〜駄無〜駄。

幼馴染 無〜駄無〜駄。

全員 む〜だ、む〜だ…

高鬼 …バカにするなよ…ば、ばかにするな！俺をばかにするな！見下すなよ…なあ。

走り去る高鬼。一人たたずむ氷鬼。

氷鬼 許せない！許せない…許せない。

後輩らしき人物が駆け寄ってくる。

部下 せんば〜い。お疲れ様で〜す。

氷鬼 (優しい口調で) お疲れ様。

部下 今度の契約書がうまく作れなくて…。相談いいですか？

氷鬼 ああ、いいわよ。

部下 ありがとうございます！

氷鬼 納期も近いから、早めに見積もりのアポとっておくようにね。

部下 はい！…あ、あと先輩、今日の報告、お願いできませんか？

氷鬼 また〜？しようがないわね〜。

部下 さすが先輩〜。大好きです〜。

氷鬼 え、なにになに？その化粧の感じ？彼氏だったり？

部下 やだ〜先輩、内緒です〜。

次々と声をかけてくる人々。次第に追い詰められていく。

上司 おい、今度の会議の資料まだか？

氷鬼 申し訳ありません。まだもう少し時間がかかりそうです…

上司 時間かけたって、出来上がらねえと意味ねんだから、さっさとしろよ〜。

氷鬼 はい、申し訳ありません。

氷鬼 申し訳ありません。少しお迎えが遅れそうです。

先生 そうですか、少し最近続いていますし、こちらもあまり遅くまでは…

氷鬼 そうですよね、本当に申し訳ありません。明日は時間通りに…

夫 君はいつも仕事ばかり…もう少し家庭のことも考えてくれよ。  
氷鬼 あなただつてロクに子供の面倒見ないじゃない！  
部下 私だつて任された仕事があるの！私がやらないといけないの！  
氷鬼 先輩、すみません。ちょっと早退していいですか？体調が悪くて…  
見積もり、まだでしょ？  
部下 お願いできませんか？どうしても無理なんです。  
氷鬼 そんな…

追い回すような音楽。

夫 迎への時間過ぎてるって連絡あつたぞ。  
氷鬼 明日までには必ず提出しますので…  
先生 たろうくん、お母さんが来ないって、いつも泣いてて。  
氷鬼 あなたが迎えに行けばいいじゃない！  
上司 お前、やるべきことはやれよな。  
氷鬼 ごめんね、もう少し時間をちょうだい。  
部下 すみません、いつ相談聞いてもらえるんですか？  
氷鬼 お待たせしました。会議の資料ができました…  
夫 もうやっていけないよ、君とは。  
部下 なんで助けてくれないんですか。  
上司 ほんと頼りになんね〜奴だなあ。  
先生 早くお迎えに…。  
夫 もうやっていけないよ、君とは。  
部下 なんで助けてくれないんですか。  
上司 ほんと頼りになんね〜奴だなあ。  
先生 早くお迎えに…。  
氷 うるさいー！…なんで私が我慢しないといけないの！  
なんで私が我慢しないといけないの？  
嫌だ！嫌だ！お前が我慢しろー！私が我慢しろ？  
お前が我慢しろ！お前が我慢しろ！許せないー！許せないー！…  
桃・氷 許さないー！

【自宅】

桃に閉じこもる桃太郎。イヌとサルが呼びかける。

サル 『桃太郎さん、桃太郎さん』



伊又 『桃太郎さん、桃太郎さん』  
サル ……おーい、聞いてますか〜。

伊又 そろそろ潜りませんかねえ〜？

桃 ……。

サル ログインしてるはずなのに応答がありませんなあ。

…よし、おにぎりでも食うか。

伊又 あ〜それ、腐ってない？

サル 最近話題の？

伊又 そう、鬼畜コンビニ。カビの生えたもの？売りつけて謝りもしなかったっていう。

サル おそろしいやつがいるよなあ。ほんと渡る世間は鬼ばかり。

伊又 あ、ほら、これ、画像、この店員。

サル へえ、意外にかわいいかも。

伊又 え〜ぶりっこっぽい〜。性格悪そう〜。

サル まあこうゆうのに限って、愛想ないんだよね〜。

伊又 そうそう〜仕事できます感出して〜。

サル うわ、うざっ。「私、失敗しませんから」的なの？

伊又 何それ、ウケるー！

サル 知らない？ドラマのやつ。

伊又 自分の間違い、認められないって。

サル ホント、人として終わってるよね〜。

伊又 一言「めんなさい」って言えばいいの「」。

サル ムカつくよね〜

桃 ちがうー…全部。ちがうー！

サル ……もしかして。

伊又 ……この「コンビニ」って。

事の顛末を聞いた伊又とサル。

伊又 じゃあ、この先輩は全然悪くないってこと？

サル 店長は浮気相手を守ってるってことか…。

伊又 そもそも土下座を強要する客って…

サル やり過ぎやり過ぎ。

伊又 だよね…許すんですか？

桃 許すも何も、これだけ広まってしまったら、どうしようもないですよ。

伊又 そうだー！こっちも同じことをすればいいんですよ。

サル 確かにーほらほら、クレームのときの、防犯カメラの映像とか残ってますよね。

桃 それはありますけど…

イ又 それをネットにばらまけばいい。これが真実だ！って。  
でも…

サル あ、ついでに罪をなすりつけた奴らもなんとかしないと。  
不倫している証拠とかもあるんじゃない？

サル いいね！それ。

桃 いや…でも…そんなことしたら余計大変なことに…  
先輩のこと、助けたくないんですか？

サル このままだと一生ネットのおもちゃですよ。

桃 それは…。

サル …そもそもこんな自分勝手なやつらを許すんですか？

イ又 人を傷付けて平気な顔して生きてる。

サル 嘘をついて、保身に走る。

イ又 家族を裏切って、仲間を見捨てる。

サル それは正しいことなんですか？ねえどうなんですか？

イ又 都合のいいように主張して、都合のいいように加工して。

サル 自分さえよければそれでいい。あとのやつらはどうでもいい。

イ又 ああムカついてきた！

サル こんなやつら人間じゃない！

イ又 絶対に許しちやいけない！

サル 今すぐにでも何とかしないと！

イ又 絶対に間違ってる！

サル ねえ？そうでしょ？そう思いませんか？

客席に問いかける。

沈黙。観客席の後ろからキジの声が聞こえる。

キジ 退治しろー！！

イ又 …退治しないと。

桃 退治？

サル …鬼退治。

全員 鬼退治

桃 何を言ってるんですか。

イ又 誰が悪いの？

桃 誰が悪いかなんて…

全員 わかっているくせに。

イヌ わかっているくせに見ないふり。

桃 ……そうですね。

イヌ かわいいそう。

サル かわいいそう。

全員 かわいいそう。

サル 何もしないのは許すこと。

イヌ 何もしないのは間違ったこと。

桃 できません。

サル 「正しいことをしなさい。」

桃 できないよ…。

イヌ 「正しいことをしなさい。」

桃 無理だよ。

全員 「正しいことをしなさい。」

イヌ あなたが許したら、

桃 誰も救われない。

サル だから救いたい。

桃 救いたい。でも…

サル 一人じゃ。

桃 無理。無理ですよ。。

全員 「私たちがついてる!」

イヌ 「君ならできるよ!」

サル 「正義の味方になるんだ!」

クリック音。防犯カメラのモニターを見つめる桃太郎。

店内では当時のやり取りが再現される。

氷鬼がクレームを言っている。

氷鬼 ……土下座しろ。土・下・座しろ!…!

氷鬼 はあ?できませんじゃなくてしろって言ってんだろ。

氷鬼 早く、土下座しろっつってんだろ!…!

イヌ 「こいつは客としての一線を越えた」

サル 「あーあー、裁判になったら負けるよこの『お客様』」

イヌ 「てかてか、本当は別の店員が売りつけたらしいよ、腐ったおにぎり」

サル 「え、だれだれ、特定班はよ」

泣いている色鬼と慰める高鬼。

色鬼 私じゃないの。ねえテンチヨー。信じて。

高鬼 わかってる、大丈夫、信じるよ。

色鬼 ほんとに？

高鬼 ああなんとかする、なんとかするから。

色鬼 ありがとう、テンチヨー。大好きだよ。

高鬼 ああ、俺もだよ。

イヌ 「あそこの店長、不倫してるらしいよ」

サル 「遊び歩いてるやつに商売する資格なし」

イヌ 「え、え、この顔で、不倫とか、調子乗り過ぎ」

サル 「え〜と、鬼が丘高鬼校のこいつが真犯人」

イヌ 「うわーやりそうな顔だな〜」

サル 「なんかパパ活とかしてたらしいよ。」

穏やかな先輩の姿。

先輩 あ、トモヨさん、こんにちは。

かこ持とうか？

今日も暑いねえ。

体、気を付けてね。

荷物運ぶよ。

先輩 あ、トモヨさん、こんにちは。

かこ持とうか？

今日も暑いねえ。

体、気を付けてね。

荷物運ぶよ。

涙を流す桃太郎。

桃 でもこんなことやっぱり！間違ってる…

閉ざすように行く手を阻むサルとイヌ。

サル 間違いを許すな…

イヌ 間違いを許すな…

サル 正しいことしなわじー！

イヌ 正しいことしなさい！

サル 間違いを許すな！

イヌ 間違いを許すな！

サル 正しいことしなさい！

イヌ 正しいことしなさい！

桃 『行きましょう 行きましょう あなたについて 何処までも  
家来になって 行きましょう』

激しい照明。おびえる鬼たち。

桃太郎をはやし立てるサルとイヌ。見守る先輩。

サルとイヌの手によって大道具が壊され、舞台が散らかっていく。

先輩 鬼の根城にたどり着いた桃太郎は叫びました！

桃 日本一の桃太郎が悪い鬼を成敗してくれるー覚悟しろー！

色鬼 私じゃないもん、私じゃない、私はわるくない！

サル え、泣いてるー可哀そうかも。

イヌ はあ？泣いたって許されるわけないだろー！ばーかー！

サル たしかにー！

サル ほらほら、さっさとつぶせよ、あんなコンビニー！

イヌ つぶせ、つぶせ！

高鬼 契約終了…ですか。そんな！

イヌ つぶれて当然、ばいばーい！

サル ばいばーい！ついでに奥さん子供もばいばーい！

氷鬼 クビって…そんなの…納得するわけないでしょ！

どれだけ働いてきたと思ってんのよ！

サル おめでどう〜今までお疲れさまでした〜。

イヌ おめでどう〜次の仕事見つかるといいですね〜

サル いやいや見つかるわけないでしょ、社会的制裁！

先輩 驚いた鬼たちは目を覚まし、桃太郎に襲い掛かってきます！

桃太郎にすがりつく鬼たち。

高鬼 悪かった！許してくれ！

色鬼 許してよ！お願い！もう許して！

氷鬼 そんなつもりはなかったの…もうやめて！

イヌ 絶対に、許さない！

サル　だつて、お前ら！

イ・サ　「悪いやつだからー！」

先輩　桃太郎にもう、怖いものではありません。

イヌ・サル

『そりゃ進め　そりゃ進め　一度に攻めて　攻めやぶり　つぶしてしまえ　鬼が島』

歌いながら去っていくイヌとサル。散り散りになる鬼たち。

桃太郎と先輩だけが残される。

桃　先輩、少しは…役に立ちましたかね？

先輩　トモヨさんは「もういいよ」と言っていました。

桃　ぼく、間違っていますよね？正しいことをしましたよね？

先輩　でも私は……。あの人のことが、どうしても許せなかつたんです。

桃　少しでもあなたが幸せに生きられるように。

先輩　憎くて憎くてしょうがなかつたんです。だからわざと…廃棄の商品を…

全員　おいしい、桃太郎〜！！

桃　これは「あなた」が正義を知る物語。

ここに参るは、正義の味方。桃より生まれし、桃太郎！

悪行三昧、鬼どもを、えんやえんやと退治して。

見せましょう！見せましょう！美しき、楽しき「正しき」世の中を！

音楽が流れ、緞帳ダウン（水曜日のカンパネラ「桃太郎」:instruments)